

農村工学技術研修の開催について

技術移転部技術研修室

1. はじめに

令和2年度の農村工学技術研修については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、全16の研修のうち、8つの研修(基礎技術A、基礎技術B、ダム機能保全Ⅱ、用水計画と河川協議、土地地質、生態系保全、経済効果Ⅱ実践演習)を中止、6つの研修(中堅研修、農村振興係長A、水利システム、農村計画・地域資源、施設保安全管理、農村防災・減災技術指導者、ため池防災・減災技術)をWeb形式での開催、2つの研修(ダム機能保全Ⅰ、経済効果Ⅰ理論)を通常の集合形式で実施しました。

令和3年度の農村工学技術研修については、全16の研修のうち、5月下旬に開催予定としていた「ため池防災・減災技術研修」については昨年度と同様Web形式での開催とし、そのほかの研修については研修生を集めての形式(集合形式)で実施する予定で準備を進めております。

なお、研修実施に当たっては、講義室が密集しないよう人数制限を設けて座席間隔を広くし、研修中のマスク着用など感染防止対策を行います。宿泊棟においても二人一部屋が原則のところ一人一部屋とし、共同浴室・談話室の使用禁止、宿泊施設内での複数での飲酒の禁止、毎朝の検温等々、密を避けクラスター発生の原因となる行動を制限するなど、感染防止対策に取り組んでいきます。

2. ため池防災・減災技術研修の実施

ため池防災・減災技術研修については、昨年度と同様Web形式(eラーニング)で実施しました。本研修は、①研修内容は、ため池決壊時の氾濫解析を行うソフト「SIPOND(エスアイポンド)」を使って氾濫解析を行い、その結果の妥当性と下流域の被災リスク等を検討した上で、GISソフトを用いて浸水想定区域図を作成する演習のみとする(講義、班別演習は行わない)、②研修生は、基盤地図情報(数値標高モデル)を国土地理院のサイトから取得し、SIPONDは送付されたドングル(USB)をPCに接続してインストールをするなど農工研から送る資料を見て各自で事前準備を行うとともに、演習も資料に沿って各自進める、③講師側は、担当するグループ(地域防災グループ)が事前準備の資料作成から研修期間中の問い合わせ対応をするとともに、共同研究においてSIPONDを開発したニタコンサルタント(株)の協力を得、技術研修室がログを行う、という体制で実施しました。研修期間は5月17日～21日の5日間とし、研修生の参加人数は40人(国1人、道府県19人、土地連20人)でした。研修実施後の研修生からの意見として、良かったというコメントでは、「今回の研修が非常に参考になった。」「研修で学んだことを今後の業務に活かしていきたい。」「自由な時間に演習を行うことができるので業務と平行して行うことができた。」などがありました。一方、苦労したというコメントとして、「職場PCにソフトをインストールするのにセキュリティ解除が大変だった(最終的に自宅の私用PCを利用した)。」「講師から操作方法等基本的な事項の説明を行った上で演習に入った方が進めやすいと思う。」などがありました。研修生から頂いた意見を参考にして、来年度以降の研修方法を集合方式とするかWeb方式とするか検討していきたいと考えています。